

心 碩

可 行 認 發 会 会 岳 風 院 学 吟 詩 本 日 碩 人 法 社 神 奈 川

5年8月現在会員数	60名	5年8月(253号)	根 中
1地区	33名	行 者	根 中
2地区	43名	岳 者	根 中
4地区	36名	岳 者	根 中
5子山地(合計)	43名	集 岳	根 中
5子山地(合計)	43名	萃 愛	根 中

平成五年七月一日付

宗 帥 根 岸 岳 萃

この度根岸岳萃先生に右の通り(宗帥)の冠省が贈られました。総本部顕彰規定に基づいて、岳風会に功績の著しい方に対し贈られるものです。おめでとうございます。会員一同心からお喜び申しあげます。尚来る十月十七日の神奈川地区大会の席上に於て授与式が行なわれます。

九月の予定行事

- ◎神奈川地区吟詠コンクール大会
日 時・9月15日(祝)
場 所・平塚農業会館
漢詩・出吟80名の中から入選10名
和歌
- 碩心会から松井正風出吟
- ◎堀内支部30周年記念吟道大会
日 時・9月19日(日)10時より
場 所・長柄会館
- ◎碩心会秋季審査会
日 時・9月26日(日)10時より
場 所・逗子市立図書館ホール

堀内支部開設三十周年に思う

堀内支部長 上 村 象 岳

私達堀内支部は今年で満三十周年を迎えることになりました。開設以来、根岸岳萃先生の指導のもと、小峰岳海先生始め、現在常任理事で活躍されていられます数名の先生方が最初からの会員で、会員同志をふやすために、それぞれの立場で努力され、諸先輩のお陰で今日があるものと感謝する次第であります。

堀内支部の会員は現在九十名になんなんとしております。この間、会員の入退会者は数えきれないほどにあり、その一人一人に、それぞれのドラマが展開されてまいりました。開設の当初は、元町の消防署の二階で始めたと聞いておりますが、私が入会したその当時はすでに、堀内会館でA班、B班、C班が教場を開いておりました。

私と詩吟とはじめての出会いには、二十一年前の正月でありました。伯父である故佐久間溪岳のすすめで、堀内支部の初吟会の席に伺い、先輩方のすばらしい吟を耳にした、その日のことが今でも鮮明に思い出されます。

又私が葉山へ移り住んで、はじめての皆様方との出会いでもありました。この出会いの陰で、私の人生の中のある部分は詩吟で占められるようになりました。

あれから二十一年を経て、時には家庭に負担をかけたなり、身体の具合の悪い時でも、吟友の皆様と共に大きな声で詩を吟じていると、自然と具合もよくなってきたりしたものでした。又心が落ち込むときは、何となく歌もくちびるにはできませんでしたが、二十才の頃読んだ山本有三の詩の中に「いつも心に太陽を、くちびるに歌を」という言葉に励まされ、気付いたときには詩吟が口をついて出ていたときもしばしばありました。吟友の皆様にも温かい心で見守っていただき、ようやく落ち付いた今日このごろであります。

このたび来る九月十九日(日)には、皆様のご協力により、堀内支部開設三十周年記念吟道大会を開催する運びになりました。何かと御多忙中のことと思いますが、お出かけ下さいますようお願いいたします。心からお待ち申し上げます。

夏季吟道講座を受講して

唐木山 広瀬晴風

「夏季吟道講座が今年も開かれますから受講されてはどうですか」と、寺脇先生からお誘いをいただいた時、私は最近聴力が弱くなり、記憶力も悪くなったので、受講は無理ですとお断りしましたが「この受講は聞いておけば、必ず参考になる事が沢山ありますから是非受講しなさいよ」とのお勧めで、受講させて頂くことになりました。

今年は、基礎講座と応用講座があり、基礎講座は千代田区公会堂、応用講座は九段会館で開かれました。私は応用講座の方を、八百六十名の皆さんと一緒に受講させていただきました。

第一日目は開講式の後、長谷川岳聖先生の講話、榊原岳獅先生の漢詩、小林岳佳先生の短歌、二松学舎大学助教授山崎正伸先生の和歌史概説、鈴木岳泉先生の古文、五人の先生方の講話講義がありました。

二日目は水谷岳宙先生の漢詩作法の作例、菊地岳桑先生の漢詩絶句、二松学舎大学教授

野村邦近先生の名詩鑑賞、そして最後に光野岳延先生の漢詩と道歌の講義がありました。

諸先生の講義は誠に素晴らしく、判りやすく、丁寧にお話をして下さいましたので、一生懸命拝聴致しました。講義の録音は禁止されていますので、テキストの空白にメモを取り、聞き洩らさぬように、かなりの努力をしい受講させて頂いたつもりです。

木村岳風先生は「共に学び、共に研究しましょう」と言われたという話がありました。

これは岳風先生の謙虚な姿勢と優しさが滲み出ている言葉だと強く感じました。また「ゆとりがあつて吟が出来る」と言うお話がありました。努力をしてゆとりを作り吟ができれば最高ではないかと感じました。

次々と素晴らしい講話講義の連続に、メモを取るのもおろそかになりがち…はじめて二日間に亘る吟道講座を受講させて頂きました。このような中味の濃い充実した講座を受けます。岳風会々員の平均年齢が七十三才のこと…その年齢に達する迄は私も更に吟道に励みたいと思っております。今後も機会があれば積極的に参加したいと思っております。

高齢者表彰に対する

「お礼のこぼれ」を読んで

堀内E 西岡清風

碩心七月号武井桃風さんのごあいさつ文は、九十二才の年令にも拘わらず大変お元気で、なお吟に対する熱心さに頭が下がりました。武井さんは一月号（二四六号）に投稿された「選拔者大会出場希望の方にひとこと」の中で、声量のある吟が好まれるのが通例ですが、吟符に忠実な味のある吟、加えて詩の心も表現できれば審査員の心を打つことができるのではないかと述べられていましたが、私も常々全く同様に感じていました。総本部はじめ県講習会にはいつも出席され、またテープをとりそろえ深く吟法を研究されていた様子を拝聞して、私も見習わなくてはと思いました。この度の表彰は、お年にかかわらず日頃の吟に対しての真摯な姿勢がまさに評価されたものと思います。私も詩吟を生涯の教養と趣味の向上に資するため、今後もさらに吟道の修練に精進努力してまいりたいと覚悟を新たにいたしました。

桃の里香りとともに流れ来る

日ごとの朗詠面影やたれ

若人にまじり吟詠たのしかり

九十二翁足なえ知らず

有意義だった指導者講習会

8月8日防大中講堂での指導者吟道講座は、熱心な指導者の皆さんで埋まり、今年に加え、午後からは新準師範の皆さんも参加、盛会の裡に終わりました。講師の先生方も立場上、色々勉強の上発表され、その効果がひしひしと私達に伝わり満足の一日でした。

（若山牧水資料館・長岡半太郎記念館）

講習会の折、突然根岸先生から、東京から来られた講師の牛丸千岳先生に防大を見学させたいので田村先生と一緒に行ってほしいといわれ、田村岳窓先生の運転で、牛丸先生、防大教授で小原台吟道会々長でもある室岡先生と御一緒させて頂く機会を得ました。偶々牛丸先生の講座課題のひとつが「白鳥は」ということでしたので、急遽長沢にある若山牧水資料館に向うことになりました。講習の合間を縫っての短時間のご案内のことと

て、運転のベテラン田村先生は、道路の混雑をうまく抜け道を走り到着。

宮崎に生まれた牧水は、明治45年太田喜志子と結婚。その後大正4年3月、妻の病氣療養のため北下浦の海岸に転地、同5年12月までのひとときをこの地で過ごしたのです。館内には数々の写真、資料、そして歌が展示され、牛丸先生は、今日のため一生懸命勉強してきたが、早くここを知っていたら……と感慨深げでした。

又資料館は長岡半太郎記念館と併合されていて、長岡氏は、初代大阪帝大総長、その他数々の肩書きを持ち、明治42年気候温暖風光明媚なこの地が気に入り、昭和25年迄の42年間を別荘として使用していた土地を提供したのがこの記念館のあるところ。そして又、その子息が現吟剣詩舞会長の笹川良一氏で瓜二つの写真に一同目をみはりました。

館を出てすぐ道路を渡った砂浜に、牧水と喜志子の歌の刻まれた碑が、東京湾をへだたれた房総の山々を眺めていて「海こえて鋸山はかすめども……」の文句がまさにびつたり。

又記念館の係の方が絃吟会の君島冨彦さんであった事も、又思いがけない出逢いでした。

辞世の句

近藤 勇

孤軍援絶作俘囚 顧念君恩涙更流

一片丹哀能殉節 睢陽千古是吾儔

靡他今日復何言 取義捨生吾所尊

快愛電光三尺劍 只將一死報君恩

慶応四年戊辰四月廿五日

(読み方)

孤軍援絶作俘囚と作り

顧念君恩涙更に流る

一片の丹哀能く節に殉ず

睢陽千古は吾が儔

他に靡く今日復何おか言わんや

義を取り生を捨つるは吾が尊ぶ所

快愛電光三尺の劍

只將に一死君恩に報ぜん

睢陽：唐の張巡のこと。安祿山との戦いに

睢陽城に抛ったからという。

儔……たぐい・ともがら・とも・なかま

◇近藤 勇(一八三四—一八六八)江戸末期

の幕臣。新撰組の隊長となり、幕府のため

尊攘派志士の取締まりに当った。

◇右の詩は東京三鷹の竜源寺境内の碑に刻ま

れており、津野国生謹書と記されています。

(俳句)

佐久間 夾 岳

釣宿の飯のねむりに閑古鳥

○梅雨に入る石工の音の休みなく

石 渡 桂 岳

コンクール吟それぞれに桐の花

海開き渚を走る少女達

白 井 寿 岳

伊勢講の初日は馬で日影茶屋

みそぎ橋千貫松や億トイレ

南 部 政 岳

○玫瑰の花や婚儀を祝いけり(家紋はまなす)

絹雲に天衣無縫の夏の富士

岩 崎 恵 岳

海山の隔り消して夏の霧

機織りの音の明け暮れ桐の花

○印は先月号で詩文の一部にまちがいがあ

りましたので改めて掲載しました。

(短歌)

竹 石 岳 泓

砂浜を歩く海面に影二つ

背後に人の居るに気付けり

朝老婆が舟揚げの木を並べ待つ

浜に漁船が帰り来る見ゆ

つれづれに

ここのとこ北の奥尻島の地震、津波。南

の鹿児島は大雨、洪水。そこへ追い打ちをか

けるように大型台風の接近、地球上のあちこ

ちの天変、地変が報じられ、何とも不気味。

そんな中、今夜の葉山の花火大会も台風の余

波で延期。冷夏で海辺のビーチパラソルもま

ぼらで何とも言えない寂しさを感じる。

そんななか、甲子園の高校野球が始まった

がいまひとつ気分が盛り上らない。明後日は

神奈川の横浜南大高校と沖縄の対戦…。熱気

で雨雲を吹きとばし、照りつけるような青空

と、勝利を期待したいもの。

又今日は細川連立新政権が発足した記念す

べき日。横目でテレビをチラチラみながらよ

うやく編集を終えたところです。8/9日24時。

(訂正)

4月入会の668三木しずのを三橋しずのに。

5月退会の619坂田明泉さんは九州八幡岳風会

へ移籍。

(退会)

296 石川千代子(沼間) 580 安元明子(堀内E)

631 新井幸子 (一色B)